

令和5年度 かほく市立大海小学校 学校評価 中間報告書

経営目標	担当	取組内容	評価の観点	達成度判断基準	児童の評価	保護者の評価	地域の方の評価	教員の評価	達成度(判定)	後期の方向性(改善計画等)	学校運営協議会委員による意見	
1	学習指導部	ア「自ら考えるための手立て」「学び合うための工夫」を研究の重点とし、授業改善に努める。	授業において「自ら考えるための手立て」や「学び合うための工夫」を意識して指導している。	教職員アンケートで80%以上				100%	A	・相互参観や研究授業、週案の取組を通して、職員全員で共通実践を進めてきた。今後も継続していく。	タブレット端末の活用について、B評価になっているが、評価の根拠は何か。週に3回以上でA評価になるとわかったが、使った回数よりも、授業の中でどれだけ効果的に使えたかどうかを指標にしていこうというのではないかな。	
		イ ★タイムマネジメントを意識し、「振り返り」や「適用問題」の時間を確保する。	授業において、「振り返り」や「適用問題」の時間を確保している。	教職員アンケートで80%以上				100%	A	・学年差はあるものの、相手に考えを伝えようとする意識は高い。今後も児童のよい姿を広めていく。		
		ウ より主体的な学習となるために1人1台端末を効果的に活用したICT教育の実践推進	1人1台端末を活用した授業を計画的に行っている。	1人1台端末を活用した授業を週に1~2回行っている					89%	B		・GIGA推進リーダーを中心とした校内研修の充実により、授業における1人1台端末の活用が促進された。今後も効果的な端末活用法を共有していく。
	学習指導部	エ 家庭学習の習慣づけを図る。(10分×学年)	学年に応じた家庭学習の仕方が定着し、進んで取り組んでいる。	10分×学年の時間をクリアした割合が90%以上 児童・保護者アンケート「自分で計画を立てている」で80%	91%	85%		95%	A	・「進んで学習すること」に課題が見られる。家庭学習の大切さを児童や保護者に周知することや児童の取組内容の価値づけ等をさらにやっていく。		
		オ 読書に親しむ習慣化を図る。	朝読書や学年に応じた必読書を設定することで、本を読む習慣をつけ、質の高い本を読んでいる。	年間 次の数値以上 低学年は150冊 中学年は100冊 高学年は80冊	58%				B	・読書に親しんでいる児童とそうでない児童の二極化が見られる。週4回の朝読書の時間を確実に保障するとともに委員会からの働きかけや学担の声かけを行い、読書の習慣化を図っていく。		
2	生徒指導部	ア ★いじめや問題行動の早期発見・早期対応・事後の確認、継続指導(観察)を徹底する。	問題行動が起きる前に、児童と積極的に関わり、生徒指導主事を中心としたチーム対応で家庭と連携を図り、問題解決ができるようにしている。	教職員アンケートの結果が90%以上 S:「いじめはどんな理由があってもいけないと思う」「いじめをしていない」が90%以上 P:「学校のいじめの未然防止や早期発見の取組が伝わってくる」が80%以上	99%	93%		100%	A	・いじめの未然防止・早期発見・早期対応のため、毎月のアンケートや児童理解の会の継続と、学校生活での児童の細やかな見取りを意識して行っていく。また、家庭との連携を図り、保護者とのより良い関係づくりを大切にすることで、お互いの情報交換・共有を行っていく。	子ども同士は仲がよいと感じる。地域でのあいさつについては、よいと感じる人もいれば、そうでないと感じる人もいる。人それぞれ性格もある。挨拶については、あまり気にならないが、地域であいさつできる子を引き続き、育てていきたい。	
		イ あいさつを通して他者との関わりを持たせる。	家庭や地域であいさつする習慣が身につけている。学校内でお客さんに会ったときにあいさつができる。	三者のアンケートの評価の割合が80%以上 児童・教職員アンケートの結果が90%以上	96%	91%	91%	100%	A	・引き続き、あいさつをすることの意味や大切さについて、集会や学活等の機会を活用して、学年に合わせた言葉や方法で指導していく。また、児童会と協力的に、児童が主体的にあいさつを広めようとする活動が行えるよう、指導や支援を行っていく。		
		ウ ★配慮を要する児童への指導や支援の在り方について児童理解の会等を通して共通理解を図る。	配慮を要する児童に対して、組織的に取り組んでいる。	教職員アンケートの結果が90%以上					100%	A		・配慮を要する児童への指導や支援の仕方について教職員間で情報交換を行い、日々の指導に生かしていく。また、特別支援教育や生徒指導に関する校内研修会を計画的に実施し、必要な知識の習得や指導方法に関する技術を学べるようにしていく。
		エ 豊かな心をはぐくむ道徳教育の充実を図る。	道徳の授業を通して、道徳的な判断力、実践力が高まっている。	S:「道徳の授業で、内容項目について考えている」が80%以上 T:「道徳では、年間指導計画に基づき、計画的に授業を行っている」が100%	88%				100%	A		・伝統文化や郷土に関する単元での授業実践では、GTを招き、判断力や実践力を高められるようにしていく。
3	保健安全部	ア 家庭と連携し、生活習慣の定着と運動能力の向上	養護教諭と連携して、食育や視力低下防止の授業及び活動を推進している。	児童・保護者アンケート「朝食を食べている」が80%以上	99%	99%			A	・若干名の朝食を食べていない児童には、声かけを行い、体調や体格の変化にも気をつけながら様子を見る。	早寝について、昔は、宿題を早めに済ませて、9時までに寝かせることが当たり前だったが、時代の流れで、出来なくなっていることについて理解できる。	
		イ「体力づくり1校1プラン」による体力と運動能力の向上を図る。	各学年で、スポチャレに取り組んだり、苦手種目を意識した活動を取り入れている。	教職員アンケートの実施で80%以上				100%	A	・スポチャレの結果を掲示するなど、継続して取り組む工夫をする。		
		ウ 「早寝・早起き・朝ご飯」または「視力低下防止」を意識して生活できる。	学校独自の「はっぴー貯金」の調査で就寝時刻を守ることが5日間のうち4日できたが80%以上		89%				A	・はっぴー貯金で就寝時刻や視力低下防止に関する取組を継続する。		
4	教務部	ア 業務の軽重、会議や行事の精選を工夫し、組織的運営を推進する。(「四協」で取り組む)	県全体で行っている勤務時間調査における勤務時間が昨年度を下回る。	勤務時間調査				R5 47.3 -8.7	A	・特別時間割の活用により、会議の開始時刻を早めることができた。今後も会議や行事を精選し、勤務時間内の教材研究の時間を確保する。		
		イ「学校運営協議会」の効果的な運用、学校関係者評価を生かした学校経営を実施する。	家庭や地域との連携に際し、積極的に学校コーディネーターや学校運営協議会を活用している。	教職員アンケートで80%以上 委員アンケートの実施で80%以上						A		
5	学校コーディネーター	ア 地域素材を生かした学習に積極的に取り組む。	総合的な学習や生活科等で地域の素材や人材を生かした授業を行っている	教職員アンケートの実施で90%以上				100%	A	・今後も教育課程と照らし合わせながら、効果的な活用となるよう、計画的に学校コーディネーターと調整を進めていく。	コロナの影響で参加できない活動が多かったが、今後は少しでも参加したい。10月以降の相撲大会やトンネルのライトアップなどに参加したい。	
		イ「学校運営協議会」の効果的な運用、学校関係者評価を生かした学校経営を実施する。	総合的な学習や生活科等で地域の学習に楽しく取り組んでいる	児童アンケートの実施で80%以上	96%				A	・学校運営協議会で出た意見や評価を基に、よりよい学校になるように、取組を考え実行していく。		